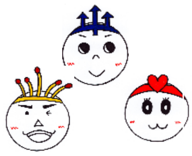
研究だより



長岡京市立長岡第十小学校
重点研究部
令和５年６月

本校では昨年度より長岡京市学力向上指定研究事業として「非認知能力の向上による学力向上実践」の研究に取り組んでいます。今年度も昨年度児童に示した「自分を高める力（やる気スイッチ）」「自分と向き合う力（粘り強さ）」「人とつながる力（思いやりや支え合い）」という３つのキーワードを使いながら、自分やクラスを振り返る活動を充実させていきます。そのためにまず各学年において学年目標をこの３つの視点にそって設定し、児童の意識付けとなるようにしました。１年間、学習や行事、日々の生活においてもこの学年目標を目指して活動したり振り返りしたりすることで、児童の成長へとつなげていきたいと考えています

	たかめール	ねばール	つながール	キャッチフレーズ
１年	なんでも　やってみる　こ	さいごまで　がんばる　こ	ともだちと　なかよくする　こ	
2年	チャレンジ2年生	よく聞きよく考える	たくさん話してたくさん遊ぶ なかよくいっしょに	
3年	【す】すすんでべん強	【て】手を取り合ってささえあい	【き】きょう力するぞ3年生	すてき
4年	【翔（しょう）】 自分から「翔ぼう」	【「しよう」】 難しくてもとりあえずしよう	【笑（しょう）】 笑って友達と繋がろう！	TIME
5年	【Interest】 関心をもって取り組もう	【Finish】 最後までやり切ろう	【Each other】 お互いに力を合わせよう 【Variety】 多様性をみとめ合おう	FIVE
6年	【上昇】 目標を高く持って、 自分を高める	【克己】 自分の悪い心や弱い心に 打ち勝つ	【絆】 互いに助け合い、絆を深めながら乗り越えていく	三刀流

３年１組　研究授業　算数科　「時こくと時間」

今年度最初の研究授業は３年１組で行いました。今回の授業では算数科として「ちょうどをまたぐ何分か後の時刻の求め方を考えたり、説明したりすることができる。」、非認知能力の視点として「お互いに声を掛け合い、説明し合っている」の２つを目標に取り組みました。授業の中では時刻の求め方について模型の時計や数直線を活用しながら友達に一生懸命自分の考えを伝えている様子が見られました。授業後は岡山大学准教授の中山芳一氏より教職員に向け「授業の中での児童の見取り」についてご講演をいただきました。授業の中で児童の感情がどのように変化していくのか、どんなことを考えているのか等を見取り、児童目線においても授業改善について考えることの必要性をお話していただきました。目の前の児童の声や姿を大事にした授業実践をこれからもしていきたいと考えています。

教職員の学び

その授業で考えたいことで困り感を共有できると、よりわかりやすい方法を考えることができる。自分で意識する非認知の自己めあてを立てることの大切さを知ったので、実践していきたいと思いました。

授業終わりの振り返りとして授業のめあての達成感だけでなく、どれだけ感情を高められたかを児童に伝えてもらうことが、児童の非認知能力に対して高まりがあったのか客観的に見れる良い手段だとわかりました。

６年生の取組

６年生では３つのキーワードに沿って「上昇」「克己」「絆」の３つを学年目標に設定し、日々活動に取り組んでいます。４月・５月では「１年生との関わり」と「修学旅行」の２つを特に重点的に取り組みました。

１年生との関わり

６年生は入学式から１年生のお世話をする活動が続いています。給食の片づけや掃除を一緒にしたり、体力テストで記録を取ったり、交流遊びをしたりと、１年生とは数多く関わります。その度に「どうすれば１年生を楽しませられるか・・・」「どうすれば１年生との仲が深まるか・・・」「うまくいかなかったときにどうするか・・・」を常に考えて活動に取り組みます。時には「うまく話せなかったな」「教え方がいまいちだった」と悩むときもありますが、その都度どうすればよいか考えながら関わり、１年生が笑顔を見せてくれると６年生もとてもうれしそうです。

どう話せば１年生にも伝わるのか考えながら話しています。伝え方が難しい時もあるけど、自分で考えながらうまく交流できていると思います。

１年生とたくさん遊んだり、手を繋いだり、話したりして楽しいです。「また来て」といってくれることもあってとてもうれしい気持ちになります。これからもたくさん交流したいです。

修学旅行

５月25･26日に修学旅行に行ってきました。修学旅行のめあても実行委員が３つのキーワードに沿って考えました。

① 楽しむときと学ぶ時のメリハリがつけられるようになる（上昇）
② 楽しみな時もしっかり話を聞く（克己）
③ いろんな人と関わって、意見を分かち合い協力する（絆）

以上のめあてを意識して事前の取組と本番の活動に臨みました。振り返りからは特に友達との絆が深まったことを実感していることがよくわかりました。普段なかなかない寝食をともにする活動によって友達の新しい一面を見ることができ、そのことに喜びを感じているそうです。修学旅行で生まれた絆をこれからも大事にしてほしいです。

楽しくても10分前行動を意識して、時間を守って行動できたと思う。それに、集中するときに周りに声をかける人も増えたと思います。

疲れたり集中が切れそうなときも最後まで話を聞こうとしました。次は顔を見て聞けるようになるともっと良くなると思います。

普段関わりが少ない人と一緒の部屋で過ごすことでたくさん話せました。みんなのことをさらに知れてうれしかったです。